

# 今、南海トラフ地震を考える

◆日時 令和5年11月20・27・12月4日(月)  
14:00~15:30(全3回)

何が危険で何に備えたらいいのか、  
知識をアップデートしませんか？  
元防衛庁主任研究者の小村先生が、  
大きな地図を広げて解説します！

(詳しい内容は裏面へ)

## DIG (災害図上訓練) とは？

- ◆Disaster(災害) Imagination(想像力) Game(ゲーム)の頭文字をとって名付けられた「DIG」
- ◆今回の講義では参加者と講師が一体となり大きな地図を囲み議論をすることで、地域の防災対策を考える訓練をします。



### 小村 隆史 准教授

- ◆常葉大学 社会環境学部 防災・地域安全コース
- ◆防衛庁(当時)防衛研究所助手、主任研究者を経て、2000年の富士常葉大学の開学と共に創立メンバーとして着任。
- ◆大学の改組・移転を経て2018年から現所属。  
災害図上訓練 DIG (Disaster Imagination Game) の考案者。

## 申込について

- ◆対象 富士宮市・富士市に在住・在勤・在学の方
- ◆定員 50人 ◆受講料 1,200円(全3回)
- ◆会場 富士宮市役所 7階 710会議室
- ◆申込期間 10月23日(月)~11月3日(金)  
(託児もございますので、お気軽にご相談下さい)
- ◆申込方法 社会教育課へ電話または電子申請で  
(電子申請はクレジットカードでの決済も可能です)



- ◆問い合わせ先 富士宮市教育委員会 社会教育課 ☎0544-22-1186

## ◆1回目(11/20)「時代の宿命」としての南海トラフ地震

東海地震説に慣れ親しんだ静岡県民ですが、2011年の東日本大震災以降に多用されている南海トラフ(巨大)地震との関係をしっかり理解している人は県民の何割でしょう。知識・情報のアップデートの意味も含め、「時代の宿命」としての南海トラフ地震の全体像について、まずは共に確認したいと思います。

## ◆2回目(11/27) 富士宮市内で覚悟しておくべき 被害の様相とその予防方法

「災害(被害)はそれぞれ違った顔をして現れる」との主張を全否定は出来ないまでも、過去の災害(被災)状況をしっかり読み解いていけば、被害の様相とその連鎖、さらには予防方法まで、多少なりともイメージすることは出来ます。では、富士宮市内で覚悟しておくべき被害の様相はどういうものか。また、それへの予防策はどういうものか。地域防災、特に防災まち歩き観点から何点か、問題提起してみたいと思います。

## ◆3回目(12/4)

### 「わかっている災害」の「覚悟すべき被害」に対して、 残された時間をどう活かしてどう予防するか、何をどう準備するか

「我が身に起こる不幸は考えないのは人の性」とはいえ、南海トラフ地震は近未来に確実に発生する超広域災害です。しかも、少子高齢化に伴う社会の活力低下は相当深刻になっていることでしょうし、支援の需給バランスはそもそも大きく崩れていますから、誰かが助けてくれる状況にはありません。残された方法は、残された時間を活かして、覚悟すべき被害を少しでも予防すること。また、「良き支援者」たるべく、支援の仕組みを作り、その実効性を高めておくこと、ではないでしょうか？そのポイントを共に考えたいと思います。

## ◆ 会場案内

富士宮市役所 7階 710会議室

〒418-8601

静岡県富士宮市弓沢町150

(エレベーターで7階へどうぞ)

